

石川県立美術館だより

平成18年8月1日発行 第274号

出光コレクションによる

ルオー展



ジョージ・ルオー《キリスト》出光美術館蔵

©ADAGP, Paris & SPDA, TOKYO, 2006



夏休み



親子で楽しむ美術館

にんげんがいっぱい。
はいポーズ!



7月21日(金)～8月20日(日) 会期中無休

※8月中の土曜日は午後8時まで開館

目次

ルオー展	2	講演会記録(小澤弘氏)	6
婚礼調度の美	3	TOPIC松田権六展	7
若杉窯・吉田屋窯	3	企画展示室、行事案内	7
夏休み親子で楽しむ美術館	4	所蔵品紹介	8
主な展示作品	5	現地見学のお知らせ	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

出光コレクションによる

ルオー展

7月21日(金)~8月20日(日) 会期中無休

主催/北陸中日新聞、石川県立美術館

NHK 金沢放送局、石川テレビ放送



《小さな家族》(1932年)

©ADAGP, Paris & SPDA, TOKYO, 2006

フランスを代表する国民的画家であり、日本では、その深い感情と敬虔なる宗教性で広く愛され続けてきた、ジョルジュ・ルオー(一八七二~一九五八)の展覧会を開催します。

ルオーは、パリで家具職人の家に生まれ、十四歳の時、ステンドグラス職人のもとに弟子入ります。後に国立美術学校に入学、そこで象徴主義の画家ギュスターヴ・モロに師事して多大な影響を受けます。やがて道化・娼婦・浮浪者・裁判官といった特異な主題を、力強い筆づかいと厚塗りを特徴とする暗く輝く色彩で描き続け、精神性の高い作品を数多く残しています。

出光美術館の所蔵するルオー・コレクションは、世界屈指の質と量を誇るものですが、本展はその四百点近いコレクションの中から、ルオーの個性を存分に味わうことのできる重厚な絵肌の油彩画とともに、初期の鮮烈な水彩画、そして比類無き深みに達した版画の傑作など、あわせて二百点余を展示いたします。なかでも、ルオーの画業の中でも重要な位置をしめる連作油彩画「受難」六十四点や、人間の悲惨・傲慢・孤独の描写から、慈悲の心と平和への祈りへ導く



《受難 1 受難》(1935年)

©ADAGP, Paris & SPDA, TOKYO, 2006

感動的な連作版画「ミゼレレ」五十八点など、珠玉のシリーズをまとめてご覧いただける貴重な機会となります。

この展覧会を通してルオーの造形の魅力を再発見していただき、その作品にこめられた真摯な思いを感じ取っていただければ幸いです。

主な作品構成

一 油彩画連作「受難」シリーズ六十四点他
キリストの「受難」をテーマにルオーが描いた連作油彩画。アンドレ・シュアレスの詩画集『受難(PASSION)』八十二点の版画挿絵を油彩画で描き直したもので、ルオーの全画業の中できわめて重要な作品群。

二 版画連作

「リュウおやじの再生」
ルオーにとつて最初の版画集であり、本格的に銅版画に取り組んだ最初の作品。
「回想録」
ルオーに芸術的養分を与えてくれたモロ、ブロン、ボードレル、ユイスマンなどの画家、作家へのオマージュ。

「流れる星のサーカス」

「一九三八年に画商ヴォラルルによって発行され、文章はアンドレ・シュアレスにかわってルオー自身が執筆。」

「受難」

画商のヴォラルルの手で一九三九年に出版され、中に収録された十七点の銅版画は一九三五年から一九三六年の年記が記されている。文章はアンドレ・シュアレスが執筆。

「ミゼレレ」(第一部「ミゼレレ」、

第二部「戦争」)

「私はこの作品に、私の持てる最良のものを詰めこみました」とルオー自身が述べているように、五十八点からなる連作版画で、ルオー芸術の頂点をなすもの。

講演会(入場無料)

日時 七月三十日(日)午後時三十分

場所 美術館ホール

演題 「出光美術館のルオー・コレクションについて」成立と特徴

講師 八波 浩一(出光美術館学芸員)

ロケコナート

日時 八月七日(月)午前十時三十分 土時三十分

場所 美術館階ロビー

演奏 アンサンブル金沢メソバ

子供無料鑑賞券

日時 八月七月(月)

八月十四日(月)

対象 小学生・中学生

観覧料

個	人	団体(20名以上)
一般 1,100円	一般 900円	一般 900円
高・大学生 700円	高・大学生 500円	高・大学生 500円
小・中学生 500円	小・中学生 300円	小・中学生 300円

当館友の会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。



葵紋時絵婚礼調度の内 十二手箱

今月のコレクション展示室
(前田育徳会展示室)

特集
婚礼調度の美

7月21日(金)~8月20日(日) 会期中無休

江戸時代、大名・公家の婚礼に際しては、女性の家から嫁ぎ先へ多くの道具類が持参されましたが、各道具類は時絵などで豪華な装飾がなされ、しかも統一された意匠にまとめられている特徴がみられます。

今回展示の婚礼調度は、加賀藩第十三代藩主である前田育徳(なりのゆき)に由来し、第十一代將軍家斉の二十二代の溶姫(ようひめ)文化十年(一八三三)明治元年(一八六八)の婚礼調度を中心とするものです。なお育徳は第十二代藩主(なりのなつみ)の嫡男として、文化八年(一八二二)金沢に生まれ、文政五年(一八二二)に育徳の隠居に伴い家督の相続が幕府から許可されました。そして翌年(一八二三)には、溶姫との縁組の命を拝しました。

各婚礼調度には、徳川家の家紋である葵紋に松唐草を併せた意匠が全面に施されたもので工芸的に優れたものです。溶姫の婚礼調度は当時の大名間の生活文化を伝えるとともに、散逸しがちな道具類にあつて、多くの道具がまとまって伝わっている点からも貴重な作品群となっています。

道具類の基本をなすのは黒桐・厨子桐で、各桐には化粧道具・文房具を中心とする身の回り品が飾られました。具体的には、鏡箱・櫛箱・白粉箱などを収める十二手箱、櫛を収める払箱や櫛箱、元結を収める元結箱、お歯黒化粧関係道具である歯黒箱・渡金箱、また大小で具をなす角赤手箱。ほか、硯箱・色紙箱、短冊箱、料紙箱、文箱などです。ちなみにこれらはいへん多くの道具類は、溶姫を迎えるために新造された赤門(あかもん)御守殿門/現東京大学赤門・重文)を含む江戸本郷の加賀藩上屋敷内の新御住居に、輿入れに先立つ文政十一年(一八二七)十一月十一日から計五日をかけて女中衆道具を含めた道具類が運び込まれて、同月二十七日に溶姫の輿・引移りが終了しました。

展示ではこの溶姫の道具類を中心に、婚礼調度の一つである碁・将棋盤や、当時の大名家の輿入れの様子を描きとめた「姫君入輿行列図」などをご覧いただきます。

第2展示室では六月の「古九谷名品選」につづいて、古九谷再考と題した「若杉窯・吉田屋窯」の特集展示を行います。

例年、夏のこの時期には所蔵品と寄託品をあわせて「古九谷・再興九谷名品選」を開催してきましたが、金沢・小松・加賀の再興九谷諸窯全体を紹介してきたことから、どの窯にあつても代表的な数点が展示されるだけでした。今年の展示では、所蔵品・寄託品ともに充実した作品数を有する若杉窯と吉田屋窯だけに絞ってそれぞれ二十点ほどを公開し、古九谷につづく九谷焼の流れを概観していただきます。

若杉窯は、能美郡若杉村(現在の小松市若杉町)に興った陶業で、藩の保護奨励もあつて明治初頭までの七十年間ほどの間に、日用雑器を中心に幅広い器種が量産されました。

今回は、染付の優品として若杉の基準的作品ともいわれる「鶯鷹図芙蓉手平鉢」や獅子の顔面を意匠化した「獅噛文鉢」、丸球形の胸部に注ぎ口をもつ特殊なかたちの「山水草花文水注」など。また色絵では、阿波国出身で若杉窯の主工をつとめた赤絵勇次郎の作と推察される「唐獅子牡丹図平鉢」、緑と薄緑を基調に印象的な絵具の用い方をした「椿図六角面取徳利」などを展示します。

吉田屋窯は、大聖寺の豪商豊田伝右衛門が古九谷窯跡の地に開いた窯で、古九谷再興を目指したものです。その作品は、芸術的鑑賞品ともいふべきものと、量産方式による日用品とが実につましく併用されて経営がなされました。

今回は、古九谷青手をねらった塗埋手の様式の「色絵万年青図平鉢」や蓋表に椿を描いた「色絵椿文六角四段重」、異国情緒を漂わせる「色絵象人物図角皿」などを展示します。

今月のコレクション展示室
(第2展示室)

特集
若杉窯・吉田屋窯
—古九谷再考—

7月21日(金)~8月20日(日) 会期中無休



色絵椿文六角四段重



色絵唐獅子牡丹図平鉢

今月のコレクション展示室

(第6展示室)

夏休み 親子で楽しむ美術館 にんげんがいっぱい。はいポーズ!

7月21日(金)~8月20日(日) 会期中無休

夏は親子で美術館!

今年も夏休みの特集企画として、コレクション展示室で「夏休み 親子で楽しむ美術館」がはじまります。今年のテーマは、「にんげんがいっぱい。はいポーズ!」です。サブタイトルが表すように、展示室はさまざまな動きや表情をした人たちで溢れかえっています。

今回はさらに全体をこどもたちの表情・動きを表現した「こどもたち」グループ、働く姿や動作・動きを表現した「はたらくすがた」こくしぐさ」グループ、美しく見せる立ちポーズすわりポーズを表現した「きれいにみせる」グループ、いろいろな表情などを表現した「いろんななお」グループと、人間のさまざまな表情・動作を楽しむことに着眼した4つのテーマに区切り、28点を紹介します。

また、昨年同様、お子さんの視点・観点に合わせて作成した作品鑑賞用のセルフガイドを見ながら、親子で考え、会話を楽しみながら鑑賞できるようになっております。子供が小さいので、作品をつくることは楽しくできても、作品をみることは難しいのでは・・・と考えられがちです。確かに鑑賞に入るときに、自由に見てほしいと子供を展示室内に置くと、楽しいもの

が見つけれずに終わってしまうことが多いかもしれせん。今回は大人もガイドを片手に「ここに出ている作品を見つけよう」「好きだなと思う一点を見つけようか」「素敵だなと思う部分はどこかにないかな」など、会話をしながら一緒に楽しんで見てください。一緒に楽しむ中で、きっと、大人が驚くような感想も飛び出してくると思います。

また、この特集展示は他の展示室に比べて絵は低く掛けられ、彫塑も低い台の上で展示されているのに気付かれると思います。ちいさな子供の視線にも合うように作品を展示してあります。通常の展示室とは違う視点でも作品鑑賞をお楽しみください。

今年もぜひ夏休みのひとときを美術館で「こくしぐさ」グループをお楽しみください。



おばあちゃんとききました

こどもたち

ジョリージャンパーの子 石川 義



赤ちゃんの遊具でぶら下がりがブランコのような中に入ってびよんびよん遊びをするものです。ぴよんと飛び上がったところかな。足先がつん!

はたらくすがたこくしぐさ

歌手 宮本三郎



熱唱する歌手が画面中央に描かれています。声が聞こえてきそうな迫力の口元・目元ポーズですね。

今月のコレクション展示室 主な展示作品

7月21日(金)~8月20日(日)

= 国宝 = 重要文化財 = 石川県指定文化財



籃胎提盤
小森邦衛

前田育徳会展示室

特集 婚礼調度の美

葵紋蒔絵婚調度

黒棚

厨子棚

大小角赤手箱

姫君入輿行列図

女三十六歌仙色絵雉図屏風

業平菱牡丹散蒔絵暮盤・将棋盤

第1展示室

色絵雉香炉

色絵雉雌香炉

第2展示室

特集 若杉窯・吉田屋窯 — 古九谷再考 —

若杉窯

染付花鳥図芙蓉手平鉢

色絵唐獅子牡丹図平鉢

染付山水草花文水注

吉田屋窯

色絵万年青図平鉢

色絵象人物図角皿

色絵椿文六角四段重

第3展示室

【油彩画】

鏡の前の裸婦

N氏の午後

裸女達に捧ぐ

【日本画】

坂に建つ街

初夏の花

送電柱

第4展示室

【油彩画】

曲と直の自然則

作品1690612

【彫刻】

春葩

木陰の女

【水彩・素描】

印度兵

裸婦

西田洋一郎

桒谷次郎

田中 昭

米林勝二

宮本三郎

鴨居 玲

第5展示室

鉄絵斑文壺

釉裏金彩牡丹唐草文鉢

籃胎提盤

童児遊ぶ

象嵌鑄銅花瓶

木彫截金香盒「残月」

石黒宗麿

吉田美統

小森邦衛

木村雨山

金森映井智

西出大三

第6展示室

特集 夏休み 親子で楽しむ美術館

にんげんがいつばい。はいポーズ！

歌手

猿田彦

ジョリージャンパーの子

道化

波乗り

宮本三郎

庄田常章

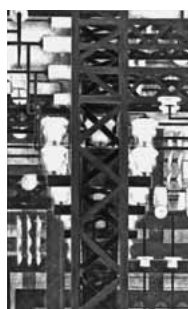
石川 義

坂根克介

山瀬晋吾

観覧料

一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円	人	大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	



送電柱
下村正一



春葩
田中 昭



裸婦
鴨居 玲

講演会記録 「浮世絵の魅力 - 久世コレクションを中心に -」

講師：小澤 弘氏

(江戸東京博物館 都市歴史研究室長・教授)



一昨年だったと思うのですが、こちらの館の南課長さんがおいでになりまして「三千点もの浮世絵が、初めて石川県立美術館へ入るのだけれども」というお話がありました。今から十年

ほど前に「国際浮世絵学会」が成立しまして、私はそのメンバーとして浮世絵そのものもだいぶ長い間見てきておりますので、何かお役に立つことがあればということで、ご相談に乗ることをお引き受けしました。その時に久世重勝さんのお名前が果たして私共の学会の組織の名簿にあるかと思い調べましたら、ありました。ただ、残念ながらお目にかかったことはなかったのです。いろんなコレクターの方は存じ上げているつもりだったのですが、金沢にそういう方がおられるとは知らなかったのです。しかも、三千点というすごい量の作品を持っておられた方というのは、どういう方なのかなあと、私も大変関心を持ちました。

その後こちらへ参って二日間、会議室で嶋崎館長を始め学芸員の方々が広げられるのを片っ端から見たのですが、二日間かけても全部見切れなかったのです。その時の印象、大変びっくりいたしましたのは、「東海道もの」でも揃っているのです。これは浮世絵にはまり込んだ方ならおわかりかと思うのですが、「東海道五十三次」が揃いで出てくることはほとんどないのです。それほど浮世絵というのは、たくさん摺られた割にはバラバラになってしまっていることが多いのです。ですから、多分、久世さんは長い時間をかけて、ひとつひとつ埋められてきた。こうした浮世絵に対するご自身の思いの込められたコレクションが、この石川県立美術館に入ったということは、私はすごいことだなと思いました。

歌川広重の『東海道五十三次』は天保二年から三年にかけて刊行されましたが、大変ヒットしまして、五千枚とも九千枚とも、ものすごく売れたと言われていました。浮世絵といいますが、一回の作業量が二百枚、これは一日の作業量になるのですが、二百枚摺るのが基本でありましたから、五千枚も九千枚も売れるというのは、大変なヒットで、今で言う百万部売れるみたいな感じになると思います。そこで保永堂という出版元も「じゃあ、次は木曾街道をやるう」ということになりました。ただし、広重をまた使うと異なった絵にならないということから、溪斎英泉という美人画の名手を登用して始めるのですが、二十四枚描いたところで、版元と上手いかなかったのでしょうか、ストップしまして、その後また広重が受け継いで描きました。『木曾街道六十九次』は、大変旅情感のあるシリーズです。

続いて役者絵ですが、三十六歌仙見立ての三代目豊国(歌川国貞)の『東錦絵三十六歌仙』は、素晴らしい役者絵ですね。髪の毛の彫り、色、摺り、どれを取っても最高級のもです。この絵は金沢ゆかりの上野さんという人に言われて、河竹黙阿弥(幕末から明治期に活躍した歌舞伎作者)さんが九代目市川団十郎にお頼みになって、末文を書いてもらっているといういわくつきのものでありまして、まさにこの石川県に置いておくのが素晴らしい。多分そういう思いがあって、お求めになられたものだろうと思っております。これを入手された時の久世さんの、なんと申しますでしょうか、にんまりした顔と言うのでしょうか。何を置いても替え難いというお気持ちを持って、きっと眺められたことだろうと思います。浮世絵オタクの方は、これを手に入れたら、興奮で寝られないと思いますけれども。

歌麿も入手するのが大変だったと思いますが、大からくりの子供が見ている『風流子宝合』というのも、いかにも歌麿らしい日常の生活風景が描かれています。単に美人画を描くだけでなく、日常の風景を題材にしたというのが歌麿の特徴でありまして、日常性における母性といえますか、女性の姿の美しさというのを表現した絵師であります。

久世さんのコレクションを拝見しますと、百六十人に至る絵師、三千枚を超える作品、それぞれにシリーズを丹念に埋めて持っておられる。恐らく、本当の初期の菱川師宣などを除きますと、ほとんどこれで浮世絵史が語られてしまう。しかも名品もシリーズものもほとんどお持ちであるという点で、よくまあこれだけお集めになられたなあ、という思いがいたしました。

浮世絵というのは、日本の文化と美の心というものを最もよく伝えますので、江戸時代に来た外国人も、その一枚で情感すらわかるということで、たくさん持って帰りました。しかし日本人はそういう大事な遺産を、まあ安かったせいもあって、廃棄してしまったのです。浮世絵はどれだけつくられたかわかっておりません。しかし、思ったほど残っていないのです。その残っていないのを、一人の久世重勝さんという方がお集めになったのです。ですから、是非石川県の皆さん、この久世さんの作品を核に、江戸の非常に大いなる遊び心と文化的なものをお楽しみいただき、次の世代へ伝えていただければ、江戸東京博物館から来た甲斐があったと思います。そして、浮世絵のファンになっていただければありがたいと思います。

(「広重・北斎・歌麿UKIYO絵展」にちなんで、4月23日に当館ホールで行われた公演内容を、当館の責任で要約したものです。)

企画展TOPIC

「人間国宝 松田権六の世界」第1回 9月29日～10月29日



「蓬萊之棚」(本館蔵) さらに、重要無形文化財

財保持者(人間国宝)認定制度制定から50年という節目を迎えたことから、本館では9月29日～10月29日の会期で「人間国宝」誕生50年 - 漆芸界の巨匠 「人間国宝 松田権六の世界」を開催します。

松田権六の大規模な回顧展は、1977年と87年に新旧の石川県立美術館で開催されています。そこで今回の展覧会は、これまでとは少し違った構成とする予定です。もちろん、東京美術学校の卒業制作「草花鳥獣文小手箱」(東京藝術大学美術館所蔵)をはじめ、代表作の「蓬萊之棚」(本館所蔵)や「鷺時絵棚」(広島県立美術館所蔵)など、松田権六といえはこの作品という名品を一堂に展示することが展覧会の主眼であることはいうまでもありません。しかし今回は、昨今注目されている環境展示、行動展示の視点から、それとあわせて松田権六の美意識、芸術観の形成過程を知る重要な手がかりとなる古美術や修復を手がけた文化財も展示します。「人に学び、自然に学び、物に学ぶ。」が松田終生のモットーでした。さらに松田は「人に学ぶのは限度があるが、物に学ぶのは限度がない」とも語っています。

その言葉どおり松田芸術は、徹底した古典の研究や修復を通して獲得された美意識、表現、材質、技法に関する極めて広範な知識に立脚しています。今回の展覧会では漢時代

の楽浪郡出土漆器(東京大学考古学研究室所蔵)や、松田が「美の恩師」と仰いだ益田孝(鈍翁)旧蔵の作品などを、松田による修復のエピソードを交えていくつか紹介する予定です。さらに今回は、松田権六の薫陶を受けた大場松魚、寺井直次、田口善国ら人間国宝各氏の作品もあわせて展示し、松田の思想がどのように継承され、また新たな作風に転換されたかを概観したいと考えています。

このように、今回の展覧会は内容も豊富で、多くの方の興味や関心に対応できるものと考えております。これまでとひと味違った松田権六の展覧会に是非ご期待いただき、またご来館をお待ちしております。

8月の企画展示室

第16回 北國水墨画展

8月24日(木)～27日(日)(第7～9展示室)

石川県内の水墨画愛好団体を網羅した統一展です。近年愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

◇**入場料** 一般、大・高生 500円(400円)
中学生以下無料()内は団体料金
当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

◇**連絡先** 金沢市香林坊2-5-1
北國新聞社事業局内
「第16回 北國水墨画展」事務局
a 076-260-3581

8月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
8/5(土)	美術講座	やきものの魅力 (南 俊英 学芸第一課長)	講義室
8/6(日)	月例映画会	日本の肖像画 歴史上の人物たち (23分) 近代絵画 (34分)	ホール
8/13(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物22 不老長寿の夢 (31分) 正倉院宝物23 天平人の武・学・遊(30分)	ホール
8/19(土)	美術講座 コンサート	日本の彫刻美術 (北澤 寛 学芸主査) トワイライトコンサート (午後6時より)	講義室 ロビー
8/20(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物23 天平人の武・学・遊(30分) 正倉院宝物24 天平の花を映す鏡(33分)	ホール
8/26(土)	ギャラリートーク	百々俊雅の世界 (西田孝司 学芸専門員)	展示室
8/27(日)	ビデオ鑑賞会	琳派と江戸前期の風俗画 (60分)	ホール

8月の全館休館日は21日(月)～23日(水)です。



いろえおもとずひらばち よしだやがま
色絵万年青図平鉢 吉田屋窯

江戸19世紀

口径38.5 底径22.5 高6.7



器面中央に大きく万年青の株を配した平鉢で、吉田屋窯の代表作の一つとして知られる作品です。軽妙な筆遣いで生き生きと万年青を描いており、余白を点で埋めているところなど同じ塗埋手の古九谷青手とはひと味違った雰囲気を見せています。古九谷に見られる筆致の豪快さはありませんが、特有の軽快さが際立っています。紺青・紫・緑の絵具の発色はやや暗めですがかえって穏和な趣を呈しています。地色の黄色と万年青に施された紺青・紫・緑のそれぞれの色が対比的で、この作品をより印象づけています。

裏面は唐草を繋いで緑彩しています。高台置付は赤褐色の胎土をみせており、陶胎のままです。また高台内は唐草風の臺先を散らして余白とも黄彩し、中央には「重角「福」の銘を書き緑彩しています。吉田屋窯のなかでももっとも初期に位置づけられるものです。

吉田屋窯は、大聖寺の豪商、豊田伝右衛門が文政七年（一八一四）、古九谷窯跡の地で開いた窯です。のちに山代の越中谷に窯を移し、天保二年（一八三二）まで続いています。豊田氏の屋号である吉田屋が窯名として用いられており、古九谷青手をねらった塗埋手の様式が特徴で、近世後期の有数な窯として、広く日本に知られている名窯です。銘は古九谷同様、「角「福」を用いるものが圧倒的に多くなっています。

第36回 文化財現地見学のお知らせ

今年度の文化財現地見学は、現在下記の予定で準備を進めています。見学コースや日程の詳細は、来月号に掲載しますので、しばらくお待ち下さい。

日程 10月14日(土)～15日(日)
1泊2日

見学先 長野県(長野市・安曇野市)

見学地 長野県信濃美術館・東山魁夷館(長野市)
安曇野ちひろ美術館(北安曇野郡松川村)
清水寺(長野市)

募集定員 45名(対象は原則として成人)

申し込み・抽選会

往復葉書にて申し込み。抽選会を公開で行います。
申込期日や抽選会日時は来月号に掲載します。

次回の展覧会

特別陳列 日本画家 百々俊雅の世界 (第4展示室)

特別陳列 尊經閣文庫名品展 (前田育徳会展示室)

特集 琳派 (第2展示室)

8月24日(木)～9月24日(日)

休館日:8月21日(月)～23日(水)

石川県立美術館だより 第274号
2006年8月1日発行
〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>